授業、部活、文化祭、課外活動…
すべてが「新しい学力」につながる！

高1・2・3年

子どもはどう育つ？ 保護者の役割は？

高校生活のさまざまな場面を通じて成長しながら
進路をつかむ子どもたちに、保護者はどんな支援ができるでしょうか。
学年別に学校行事と進路行事のモデルスケジュールを作成し、
子どもの成長ポイントと保護者の関わり方をまとめてみました。
今年度も学校行事は新型コロナの影響を受けて
変更が生じる可能性もありますが、見通しを立てる参考にしてください。

取材・文／藤崎雅子　イラスト／加納徳博

次ページからの「学校行事モデルスケジュール」の見方

【CHECK 1】
さまざまな活動で新学力UP

保護者には見えにくい高校生活。モデルスケジュールでさまざまな成長ポイントのご確認を。特に、学力の3要素（※）の育成が期待される行事については、【新学力UPの視点】を解説しています。

【CHECK 2】
進路選択の重要行事は1年生から

高校卒業後の進路に関わる重要な選択の機会が、早くも1年生でやってくることを知っていますか？　保護者も進路決定の流れと注意点をおさえて、子どもの主体的な選択を促していきましょう。

【CHECK 3】
保護者の出番となるタイミング

子どもが高校生になると、どこまで手や口を出してよいか難しさを感じる保護者は多いもの。保護者の出番となるタイミングを把握して、適切な距離感で子どもをサポートしていきたいですね。

※学力の3要素＝知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性

【アドバイザー】

滋賀県立草津東高校 進路指導課長（取材時）
堀 浩司先生

教員歴37年。「行き先指導ではなく生き方指導」「家から近い大学ではなく夢から近い大学」などを大切にした、3年間の体系的な進路指導を推進。

1年生

環境変化に少しずつ慣れて生活リズムを形成。卒業後の進路についても考え始める

主な学校行事

4月
- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 授業スタート

学校行事の案内やクラス対抗レクリエーション、勉強の仕方レクチャーなどが実施される。学校・クラスへの帰属意識や学校生活への意欲を高める。

生徒同士で対話したりグループワークを行ったりする、アクティブラーニング型の授業が増えている。

【新学力UPの視点】
自ら発信することが求められるため、従来の座学型授業以上に主体的に学ぶ姿勢、深く考える力が養われる。

5月
- 部活動スタート
- 中間テスト
- 個人面談

中学時代よりも活動内容が生徒中心に。上級生が練習メニューやスケジュールを組む部活も多い。

【新学力UPの視点】
チーム全体のため自分たちで考え工夫し後輩に働きかける先輩たちの姿から、主体性、判断力、表現力を学ぶ。

6月

7月
- 期末テスト
- 模試・外部テスト

8月
- 夏期講習
- 校外プログラム

9月
- 文化祭
- 体育祭

生徒の実行委員を中心として企画・運営。クラスや部活動のチームで力を合わせ、出し物を製作したり、競技に取り組んだりする。春に開催し、早い段階での仲間づくりに役立てる学校も。

【新学力UPの視点】
初の大型行事。意見がまとまらない、方法が見つからないなどさまざまな壁を仲間と共に乗り越えていく経験で、協働性、思考力、判断力が養われる。

10月
- 中間テスト

進路選択に関わる行事

4月
- 適性診断
- 進路ガイダンス

個人の性格や興味・志向を基に向いている学問や職業適性を診断する、外部テストを実施する学校は多い。結果が出たあと、適性があると診断された学問や仕事の中身について調べたり、自分の希望とすり合わせたりすることが大切。

6月
- 文理選択希望調査

次年度の文理コースや履修科目について、現時点の希望を提出。秋に実施される再調査で、最終選択をする。だからといって「とりあえず」という気持ちで書くのではなく、興味分野や希望進路との関連をしっかり検討したうえで提出する。

8月
- オープンキャンパス・公開講座参加

夏休みを中心に多くの大学・専門学校でオープンキャンパスや高校生向け公開講座が開催されるので、各自で申し込み参加する。WEB開催も増え、リアル参加が難しい遠方の学校にも参加しやすくなっている。

10月
- 仕事・学問調べ

保護者の参加行事と関わり方

4月
- 保護者会

学年・クラスの1年間の指導方針について説明される。最近はオンラインで実施する学校も。

Point! **生活リズムづくりに協力**
夕食・勉強開始・就寝の時間を一定にする「3点固定」を心掛けると、帰宅後の生活リズムを整えやすくなります。夕食時間については保護者の協力も必要でしょう。

6月
- 保護者面談

高校生活の立ち上がり状況や、初めての成績をふまえた課題などを共有。最近はオンラインで実施する学校も。【参考：左ページコラム】

Point! **初めての定期テスト後は前向きな声かけを**
初めてのテストの難易度や結果にショックを受ける子どもは少なくありません。似た学力の生徒の集まりのため、中学時代と異なる成績順位は当然。本人が前向きになれるような声かけを。

10月
- 保護者向け進路説明会

最新の入試動向や、3年間の進路決定までの流れなどについて情報提供される。

Point! **保護者会はなるべく参加**
1年生保護者に合わせた内容が組まれるのでなるべく参加を。変化の激しい大学入試についても、最新情報を仕入れておきたいところ。

1学期を終え、生活リズムや体づくりが整う時期。子どもが自分で考え判断して行動するよう、少しずつ手放しを。

モードチェンジ

生活リズムづくりモード

1学期中は新生活に慣れるのを焦らず支援

新型コロナに振り回された昨年度を乗り越え、晴れて高校生となったわが子の姿に、頼もしさを感じている保護者は多いでしょう。しかし、心身共に高校生らしくなるまでには、少し時間がかかります。入学直後は通学方法や通学時間の変化、人間関係づくり、新しい授業への対応などで毎日ヘトヘトに。家では寝てばかりという子どもも珍しくありません。

「ご心配でしょうが、1学期中は、部活動を辞めさせるようなことはせず、食事面のサポートぐらいにとどめて見守ってあげてください。夏休み明けは体力もつき、生活リズムが整うでしょう」（堀 浩司先生）

1年秋は学力が大きく動く時期。1学期は勉強面がおろそかになっていた子どもでも、この時期に自宅学習を含めてしっかりした生活習慣ができることで、大きく成績を伸ばす例は多いといいます。

進路は絞り込むより可能性を広げる方向で

入学したばかりの1年生には、

＼ 教えて！ 堀先生 ／

保護者面談

こう言われたらどうする？

【 case1 】

「成績が下がってきましたね」と指摘されてしまった（汗）

教員がこう話す狙いは、まずは現状認識を合わせたいからで、保護者を叱っているわけではありません。縮こまらず、これを機に**家庭での子どもの様子や学習環境などを教員に伝えておくと**、今後、教員が的確な支援を行うための貴重な情報になります。また、家庭では、勉強面に口を出すより、**生活リズムづくりの支援や、将来についての会話でモチベーションアップを図るなどの協力**を。

【 case2 】

「学校の様子は問題ありません」ぐらいしか言われず…

まずは言葉通り順調なのだとご安心を。ただ、あまり具体的な話が聞けず不安があるなら、「**もう一歩がんばるとしたらどんなことでしょうか**」**などと踏み込んで尋ねてみる**のも手。「子ども一人ひとりをちゃんと見てくださいね」という教員へのメッセージにもなるでしょう。

【 case3 】

「今はみんなこんなもの。これからです」…って、本当？

その学校の3年間で生徒がどう成長するか、間近で見てきた教員だからこその発言です。さらに、「みんないつごろしっかりするのでしょうか」「〇〇部の先輩はどうですか」など**上級生の具体例を聞いてみる**と、保護者も今後の見通しがもてて安心できるのではないでしょうか。

【 case4 】

「〇〇をがんばっていますよ」と褒められた

褒められた内容を、ぜひ**帰宅後お子さんに伝えて**ください。教員は生徒一人ひとりのがんばりについて、本人に伝えきれていないこともあります。保護者を通して些細なことでも褒められると、子どもは自信をつけ、「先生は見てくれている」という安心感にもつながるでしょう。

※学校行事はモデルケースです。新型コロナの影響で例年と異なる時期、内容で実施される可能性もあります。

11月 ● 模試・外部テスト ● 個人面談

1年秋は学力が大きく動く時期。高校生活に慣れてきたところで、しっかりした学習習慣・生活習慣が身につけられた子どもは、成績が伸びやすい。

12月 ● 期末テスト

1月 ● 模試・外部テスト

1年生から数回実施されることも。自分の得意・不得意分野を把握する。

3月 ● 学年末テスト

● 文理選択最終調査

次年度の文理コースや履修科目について最終的な選択を行う。あとからの文理変更は実質困難な場合が多く、入試でも不利になるため、しっかり考えたうえで提出する。

● 社会人講演会

多様な大人から直接、職に就くまでの道のりや仕事のやりがいなどを聞く。高校生活にしか目が向いていなかった子どもも、視野が広がったり、働くとはどういうことかを考えたりするきっかけになる。

● 文理・科目選択書類の確認

書類には保護者の確認・捺印が必要。

Point! **子どもの考えを聞く**

選択の理由を確認したうえで捺印を。子どもの考えに対し保護者として意見を言うのは悪いことではありませんが、あくまで子ども自身に選択の主導権があるということを忘れず、価値観を押しつけることのないよう注意しましょう。

Point! **仕事や社会について話す**

身近な社会人として、仕事の経験や社会の動きなどについて積極的に話すことで、子どもの視野を広げることができます。学校での社会人講演会などの実施を機に、「どんな話だった？」「どう感じた？」などと話題にするのも効果的です。

成長見守りモード

卒業後の進路の話は遠い先のことに聞こえるでしょう。しかし、進路は「3年生になって決める」のではなく「3年かかって決める」もの。多くの高校では、春から適性診断や仕事・学問調べなどを通じて進路について考えさせ、秋には文理選択の最終調査を行います。文系に進むと理系学部受験に必要な科目が履修できない場合があるなど、文理選択は後戻りが難しい大事な分岐点です。保護者も子どもの考えをしっかり確認しておくことが大切です。

こうして早くも大きな選択を迫られますが、職業や学問に関する高校1年生の知識は豊富とはいえません。資格系の職業を目標に挙げる子どものなかには、就職の有利さなどで短絡的に考えている場合もあります。

「1年生は進路を絞り込むより、可能性を広げたい時期。子どもの興味の周辺にある多様な仕事について家庭で話すなど、子どもの視野を広げるよう意識するとよいでしょう」（同）

また、2020年度から大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト」が始まり、出題傾向が変わりました。保護者も、学校などから提供される最新情報にアンテナを張っておくと安心です。

2年生

学校行事や部活動などに全力投球することで幅広い力を身につけ飛躍的に成長

主な学校行事

4月
- 授業スタート

文理分かれての授業となり、より深い学びに取り組む。生徒同士での対話やグループワークを行うアクティブラーニング型の授業では、より積極的な姿勢が求められる。

【新学力UPの視点】
授業中に自ら発信することも多いため、従来の座学型授業以上に主体的に学ぶ姿勢、深く考える力が養われる。

5月
- 授業公開
- 中間テスト
- 個人面談

6月
- 部活動の代替わり

3年生が引退し、2年生を中心とした体制へ。下級生にも心を配り、部を引っ張っていく立場になる。

【新学力UPの視点】
リーダーシップを発揮し、困難な場面も仲間と乗り越える経験を積むことで、技術力以外にも多様な力が育まれる。

7月
- 期末テスト
- 模試・外部テスト

受験時に志望校を記入するようになる。学校について調べたり考えたりするきっかけになる。

8月
- 夏期講習
- 校外プログラム

9月
- 文化祭
- 体育祭

1年生での成功・失敗経験を基に、さらにレベルアップした内容を目指して取り組む。春に開催し、クラスづくりに役立てる学校もある。

【新学力UPの視点】
クラスや部などのチームで力を合わせ、想定外の事態にも対処するなかで、協働する力や思考力、判断力が鍛えられる。

10月
- 中間テスト
- 修学旅行

このころが高校3年間の折り返し地点。気を引き締め直す機会とする。

進路選択に関わる行事

4月
- 進路ガイダンス

進路決定に向けてどう学習を進めるかや、学部・学科の選び方などについて指導される。

5月
- 大学教員の出張講義

大学教員を招いて模擬授業を実施する学校も。大学の学問・研究の面白さや奥深さを体験する。

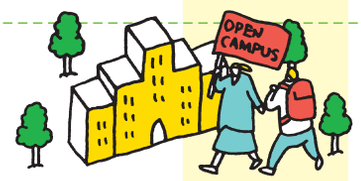
6月
- 進路に関する課題研究

進路に関連する探究学習を数カ月かけて行う学校も。例えば、各自でテーマを設定して大学や企業、地域に出て情報収集し、ポスター・レポートにまとめて発表するなど。

【新学力UPの視点】
自ら設定したテーマを深めていく過程で主体性や思考力が養われ、情報を整理して表現する力も育まれる。

7月
- 三者面談

8月
- オープンキャンパス・公開講座参加



夏休みを中心に多くの大学や専門学校でオープンキャンパスや高校生向け体験講座が開催されるので、各自で申し込んで参加する。3年生は受験勉強で忙しくなるので、2年生が参加のピーク。保護者と一緒に参加する人も多い。WEB開催も増え、遠方の学校にも参加しやすくなっている。

保護者の参加行事と関わり方

4月
- 保護者会

学年・クラスの1年間の指導方針についての説明があり、進路に関する情報提供も行われる。

Point! **子どものがんばりは積極的に見学**

授業公開や文化祭・体育祭、部活動の試合や発表会などは、積極的に見に行くのがオススメ。家庭では見られない子どものがんばりが見られ、成長を実感できるでしょう。

7月
- 三者面談

進路についての話題がメイン。どんな方向性を考えているか、そのためにどんな準備をしていくとよいか話し合う。

Point! **勉強と部活以外の活動も後押し**

夏休みは地域ボランティア、企画アイデアコンテスト、短期留学、サマーキャンプなど、学校の枠を超えて活動するチャンス。本人の興味関心や進路の方向性に基づく幅広い経験を促しましょう。

10月
- 保護者向け進路説明会

保護者の時代から様変わりしている入試の状況について解説される。

Point! **入試の基礎知識をもつ**

最近の入試の傾向についてある程度知っておくと、子どもとの進路の会話がスムーズになるでしょう。ただし、保護者主導で情報収集したり判断したりするのは避け、子どもの考え・行動を見守りたいものです。

モードチェンジ

高校生活後半に突入し、学校行事や部活動に打ち込みながらも、進路選択や受験勉強への意識を強めていく時期です。メリハリをつけて生活できるよう、時に声かけしていきましょう。

成長見守りモード

一生懸命やる楽しさを知ると勉強に対しても前向きに

2年生は中だるみの学年といわれることもありますが、実は最も大きく成長できる1年間です。文化祭や体育祭などの学校行事では中心となって企画・運営にあたり、部活動では3年生引退後に後輩をリードするなど、活躍の場が増加。そのなかで子どもたちは思考力や判断力、協働する力などをつけていきます。コロナ禍で活動が制限された昨年度、その重要性を再認識した学校も多かったようです。

生徒主体で活動するなかでは、うまくいかないことや仲間とぶつかることもあるでしょう。しかし、「それこそ精神的なタフネスや柔軟性を養う貴重なチャンス。不透明な時代をしなやかに生きていく力になる」と堀先生。そうして困難を乗り越え、やりきった充実感や達成感は格別だといいます。

「受け身だった生徒が、一つの行事に打ち込んだことで『一生懸命取り組む楽しさ』に目覚め、その後は勉強を含めあらゆることに能動的になることも。ぜひ思い切り活動

＼ 教えて！ 堀先生 ／

子どもの進路選択
こんなときどうする？

【 case1 】

えっ、今になって「志望学部を変更したい」!?

高校生活のさまざまな経験のなかで、興味関心ややりたいことが変化するのは自然なこと。むしろ、将来について深く考え始めたと前向きに捉えていいのかもしれません。保護者としては頭ごなしに否定せず、まずは**志望を変えたきっかけや理由などの子どもの話に丁寧に耳を傾ける**ことが大切でしょう。そのうえで、子どもの考えに甘さや視野の狭さを感じるなら、**人生の先輩として冷静にアドバイス**を。保護者から話すと喧嘩になりそうな場合は、**教員に相談して協力を仰ぐ**のもよいでしょう。

【 case2 】

「一般選抜で受験しないから」とのんびり。大丈夫？

学科試験がなくても「楽」とは限りません。学校推薦型選抜や総合型選抜で課される面接・小論文は自分の内面まで問われ、学科試験より厳しいともいえます。学校推薦型は「過去」（高校時代のがんばり）をPR、総合型は「未来」（進学後の可能性）をPR、一般は「現在」（選抜時点の学力）をPRする選抜という捉え方ができます。そうした**特徴をふまえて子どもに「自分に合うのはどれだと思う？」と問いかける**などし、今一度、進路実現に必要な選択について考えさせたいですね。

【 case3 】

もうすぐ3年生なのに、まだ進路希望がはっきりしない…

変化が激しく不透明な時代を生きていくには、しっかりした自分の軸をもつことが非常に大切。この時期の生徒には、安易に資格系職業に飛びつくより、じっくり腰を据えて考え自分の軸を見つけてほしいと思っています。じれったいかもしれませんが、保護者には**「待つ」姿勢**をお願いしたいですね。とはいえ放任するのではなく、日常のなかで子どもが今がんばっていることやTVに登場した職業を話題にするなど、**子ども自身が考えるきっかけをつくる**といった協力は大切ではないでしょうか。

※学校行事はモデルケースです。新型コロナの影響で例年と異なる時期、内容で実施される可能性もあります。

11月
- 模試・外部テスト
- 個人面談

12月
- 期末テスト

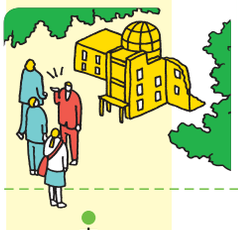
1月
- 大学入学共通テスト体験模試
- 模試・外部テスト

2月
- 小論文学習がスタート

3月
- 学年末テスト

単なる思い出旅行ではなく、事前・事後学習を含めた体験的な学びの機会。内容は、研究所や企業の職場訪問、住民の体験を聞く平和学習などさまざま。

【新学力UPの視点】
体験を通じて生きた知識を身につける他、旅先の暮らしや課題に目を向けることで多様性の理解を深めるなどの効果も期待できる。



試験当日に受験生と同じ問題に挑戦する模試。志望校合格への現在の到達点を確認し、今後の学習計画を見通す。

入試でも課されることが多い小論文。対策に時間がかかるので、2年生からスタートする学校は多い。

- 次年度の科目選択

進路分野や志望校によっては、必ず履修しておかなくてはならない科目がある。**目標に応じて必要な科目を選択する。**

- 志望理由ワークシート

現時点の志望校について志望理由を書いてみる進路学習。自分の思いを文章にすることで、目標達成への意欲を高めるのが狙い。

- 合格体験報告会

進路が決まった先輩たちから、合格への道のりやアドバイスなどを聞く。生の体験談を聞くことで刺激を受ける生徒は多い。

- 次年度の科目選択書類の確認

書類には保護者の確認・捺印が必要。

Point!
先生への相談を促す
受験と科目選択との関係は複雑。子どもが迷っていたり、安易に考えていたりする場合は、本人が学校で先生に相談してみるよう促すのも手です。

進路決定応援モード

させてあげてください」（堀先生）

また、高校生対象のコンテストやワークショップなど校外イベントに参加し、主体性やコミュニケーション力を飛躍的に伸ばし、興味関心を広げる生徒も。さまざまなことに積極的に挑戦するよう、ぜひ家庭でも後押ししたいですね。

受験対策が始まるときこそ目的意識を再確認

2年生の10月ごろは、高校生活の折り返し地点。このころの実施が多い修学旅行が終わると、一気に受験ムードが高まります。さらに、「3年生0学期」と言われる3学期には、先輩たちが次々と進路を決定していく姿を横目に、受験勉強を始める2年生が増えます。

この時期、志望理由ワークシートなどを活用して、進路に対する自分の気持ちを確認する時間を設ける学校が少なくありません。

「将来きれいな『花』を咲かせるためには、勉強をがんばって『枝』を伸ばすとともに、何のための勉強かという目的意識をしっかりもって『根』を張ることが大切です。しかし、誰かが無理に『枝』を引っ張ると枯れてしまうことも。家庭では水や肥料をやる気持ちで見守り、子どもが自ら強い『根』を伸ばせるよう応援しましょう」（同）

3年生

高校生活をやりきったという充実感を原動力に進路実現に向けて強い気持ちで進んでいく

主な学校行事

4月
- 授業スタート
  - 1・2年の学習を土台に、まずは基礎・基本の定着に注力し、秋からの応用力養成につなげる。

5月
- 中間テスト
- 個人面談
- 模試・外部テスト
  - 3年生になると模試の受験回数が増加。マークシート式、記述式、大学・分野特化型などさまざまな種類の模試があるので、志望に合わせて計画的に受験する。

6月
- 部活動引退
  - 3年生は夏の大会後に引退というケースが多い。これまでの集大成として最後にひとがんばりし、引退後は新しい生活リズムに切り替える。
  - 【新学力UPの視点】最後まで諦めずに取り組むことで、受験勉強に対する主体的な姿勢にもつながる。
- 模試・外部テスト

7月
- 期末テスト
- 模試・外部テスト

8月
- 夏期講習
- 模試・外部テスト

9月
- 文化祭
- 体育祭
  - 高校生活最後の大きな学校行事。仲間と完全燃焼したという達成感・満足感をもって、受験勉強への集中につなげる。学校によっては春に開催し、早期に受験対策に入る。
  - 【新学力UPの視点】1～2年での経験を生かしてクラスや部などのチームで取り組むことで、協働性や思考力、判断力の成長が実感できる。
- 模試・外部テスト

10月
- 中間テスト
- 模試・外部テスト

進路選択に関わる行事

4月
- 進路ガイダンス
- 日本学生支援機構奨学金の予約採用申し込み開始
  - 【参考:63ページ】

5月
- 進路希望調査
  - 総合型選抜は受験時期が早く、提出書類作成に時間がかかるため、希望者は春から準備を始める。将来の目標や進学後に学びたいことを明確にしておくことが大切。

6月
- 総合型選抜ガイダンス
- 志望理由書・面接指導

7月
- 三者面談
  - 第一志望合格のための学習到達ラインを確認し、夏休みの学習戦略を立てる。

8月
- オープンキャンパス・公開講座参加
  - オンラインで個別相談可能な学校も。受験勉強のモチベーションアップにも効果的。

9月
- 学校推薦型選抜ガイダンス
- 指定校推薦の校内選考
- 大学入学共通テスト出願書類提出
  - 大学入学共通テスト出願は高校で取りまとめて行う。出願書類には受験科目の記入が必要なため、それまでに志望校受験に必要な科目を調べておく必要がある。

入試スケジュール

国公立大学
- 入試科目等発表

私立大学
- 総合型選抜（旧AO入試）
- 募集要項が出始める

専門学校
- 出願開始
- エントリー開始
- 募集要項が出始める

保護者の参加行事と関わり方

4月
- 保護者向け進路説明会
  - 入試スケジュールや家庭でのサポート方法、奨学金などについて説明がある。
  - Point! 進学費用の確認
    早めに進学費用を見積もり、子どもの希望とすり合わせておきましょう。奨学金の利用が必要な場合は、準備を始める時期です。

7月
- 三者面談
  - 具体的な志望校、受験対策について三者で確認。
  - Point! 生活切り替えサポート
    部活動引退後は、放課後時間の使い方が変わります。保護者は夕飯の時間を見直すなど、新しい生活リズムづくりに協力を。
  - Point! 「目標に近づくため」の面談にする
    夏休みの過ごし方に影響するので、目標を下げるのではなく、目標に近づくための面談にしましょう。志望校のレベルを下げたり受験科目を削ったりといった検討は、秋以降で間に合います。

モード切り替え時期
（受験する方式の実施時期に合わせて）

進路決定応援モード

行事や部活に完全燃焼後切り替えて受験態勢に

最高学年である3年生は、学校行事や部活動で最も輝ける学年です。子どもに希望の進路をつかんでほしい保護者としては、「早く受験勉強に集中して」と急かしたいところですが、学校行事や部活動に一生懸命取り組むことは、必ずしも進路実現の邪魔ではないようです。

「本校の生徒には、学園祭の準備を含めた数日間はいったん勉強のことは忘れて完全燃焼しようと言っています。それによって充実感や自信、仲間がいる心強さをもてれば、終了後はすっぱり意識を切り替えて勉強に集中できるからです。何事にも最後まで手を抜かずやりきる子どもなら、受験勉強も粘り強くがんばっていけるでしょう」（堀先生）

ただし、放課後の過ごし方が変わる部活動引退後は、生活面に多少の目配りも必要。燃え尽きてぼんやりしている子どもには、うまく生活を切り替えていけるよう声かけするとよいでしょう。

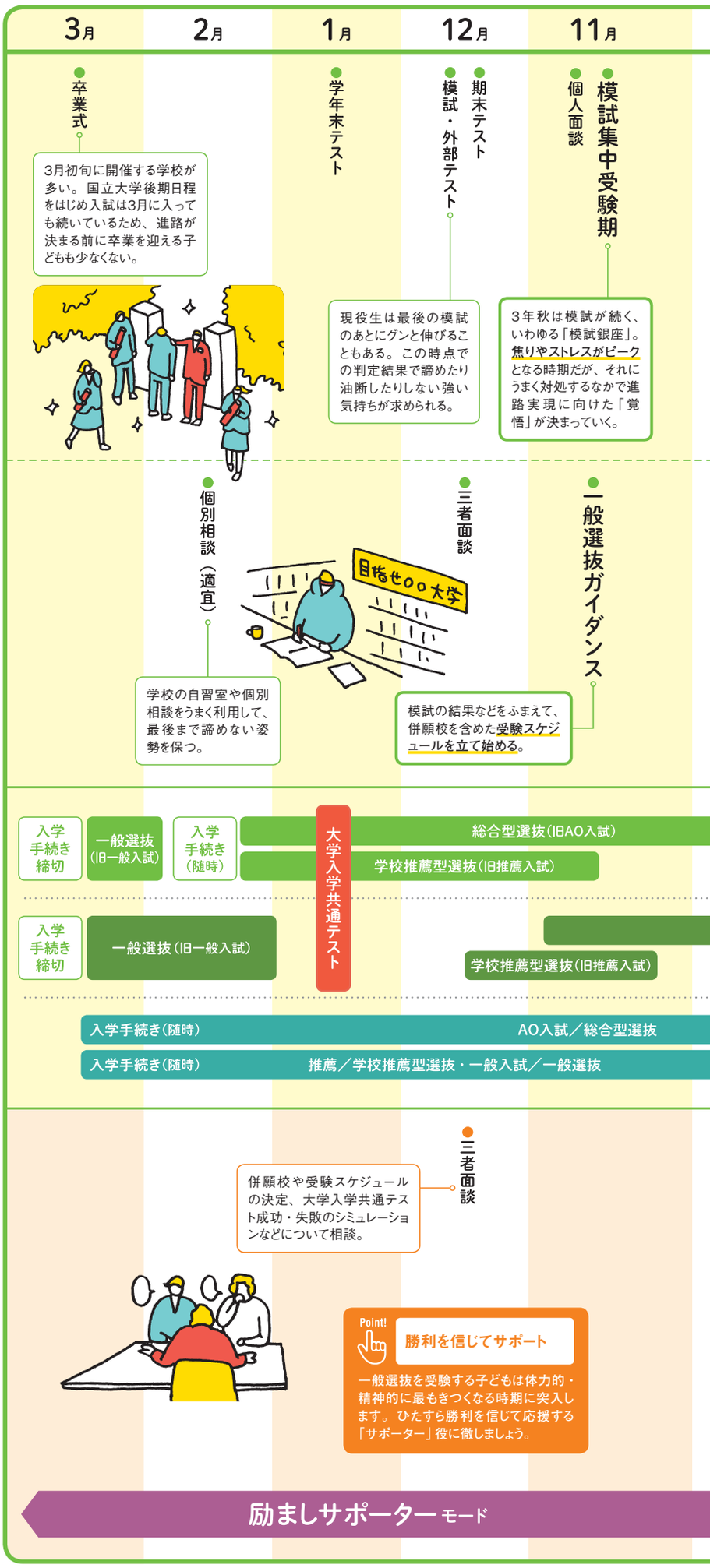
また、進学費用については、保護者の出番です。子どもは家庭の経済状態についての勝手な思い込みから、志望を諦めてしまう場合も。「ここまでなら出せる」というラインを早めに明らかにしておきたいですね。

受験直前は精神面が大事前向きな言葉かけを

一般選抜の受験生にとっての正念場が10月～11月ごろ。毎週のように模試を受験し、体力的・精神的に最も苦しい時期となります。

「『この判定で大丈夫なの』『ちゃんと勉強しているの』などの言葉は不安や焦りを煽るだけ。たとえ偏差値や合否判定が厳しくても、保護者は『勝利を信じてひたすら応援するサポーター』役に徹して、『大丈夫！』と思い切り励ましてあげてください。この時期を乗りきることができれば、あとはもうやるしかないと覚悟を決めてラストスパートにかかれるものです」（同）

こうして自分自身で選んだ進路へと一歩を踏み出す子どもたち。高校時代、保護者に見守られてきたという思いは、きっとこれから自分の足で歩んでいく子どもの力になっていくでしょう。



※学校行事はモデルケースです。新型コロナの影響で例年と異なる時期、内容で実施される可能性もあります。
※入試名称やスケジュールは各大学・専門学校によって異なりますので、各学校の発表をご確認ください。